

大学入学共通テストの枠組みにおける記述式問題の導入の
見送りについて

【会長コメント】

令和元年 12月 17日
一般社団法人 国立大学協会
会長 永田 恭介

この度、萩生田文部科学大臣から、記述式問題の導入について、受験生の不安を払拭し、安心して受験できる体制を早急に整えることは現時点において困難であるとして、導入を見送ることが発表されました。

国立大学協会は、これまで文部科学省に対して、記述式問題の諸課題について可及的速やかに検討のうえ、解決されるよう要請をしてまいりました。

各国立大学においては、それぞれのアドミッションポリシーに基づき、個別試験において記述式問題を導入しております。国立大学協会としては、「学力の3要素」の涵養を基本とする高大接続システム改革の趣旨を踏まえ、上記の課題が解決されることを前提に、一般選抜の全受験生に大学入学共通テストの記述式問題を課すことを決定していたところです。

今回の導入見送りの決定により、我が国の高大接続改革の歩みが止まることのないよう、文部科学省には改めてお願いするところです。

また、今回の発表を受けて、各国立大学においては、すでに公表している2年前予告の見直しを行い、受験生や高等学校等関係者が混乱することのないよう速やかに対応を公表するよう努めてまいります。